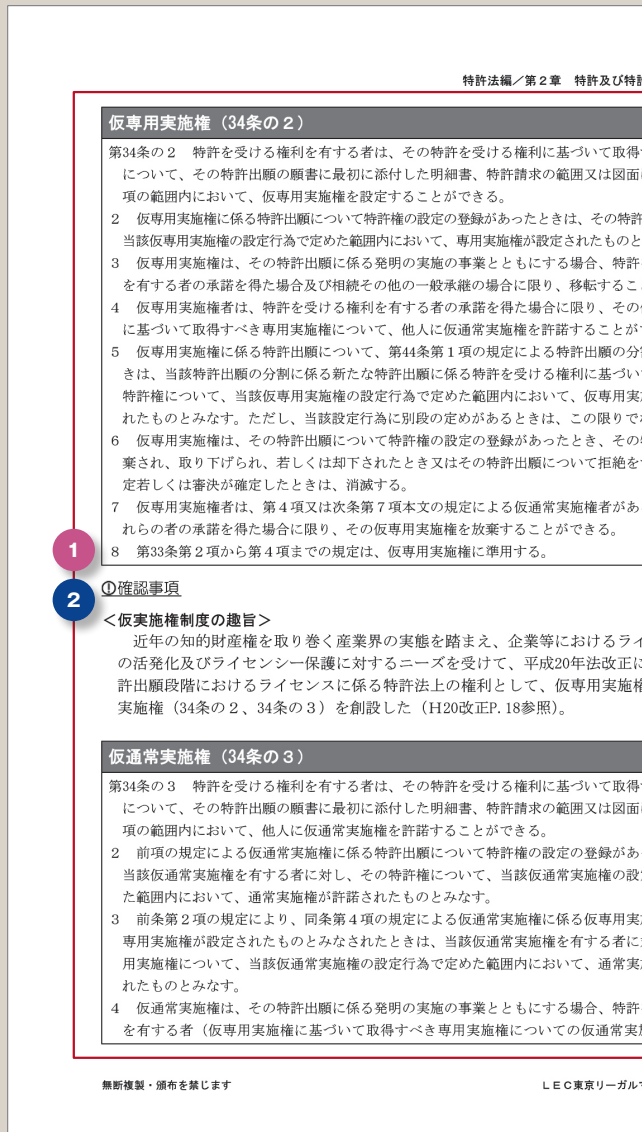




講座の要となるオリジナルテキスト。合格へ導く仕掛けが凝縮されています！



画像はサンプルです。



1

まずは条文

短答試験では「条文に始まり、条文で終わる」と言われるように、条文の正しい知識が要求されます。そのため、まず条文を挙げた上で確認事項を掲載しています。条文によって、講義で濃淡をつけながら学習していきます。

2

関連知識は一覧で

テキストには必要な情報のみを集約し、関連知識を極力見開きで理解できるよう、一覧性を確保した構成で編集しています。これをベースに、講義中にカラーペンとカラーマーカーで仕上げていくことによって、条文をビジュアル的に理解でき、知識が脳裏に焼き付きます。

3

図解を豊富に

確認事項には、時系列や表などの図解を豊富に用いて解説。受験生が躓きやすいポイント等において、右脳でイメージしながら左脳で理解できるよう工夫を施しています。

4

宮口流語呂合わせ！

宮口講師オリジナルの語呂合わせのテクニックも掲載。覚えにくい条文もテクニックを駆使して攻略するのが宮口流です。即興演奏ならぬ、即興語呂合わせが飛び出すのも宮口講義の醍醐味です。

5

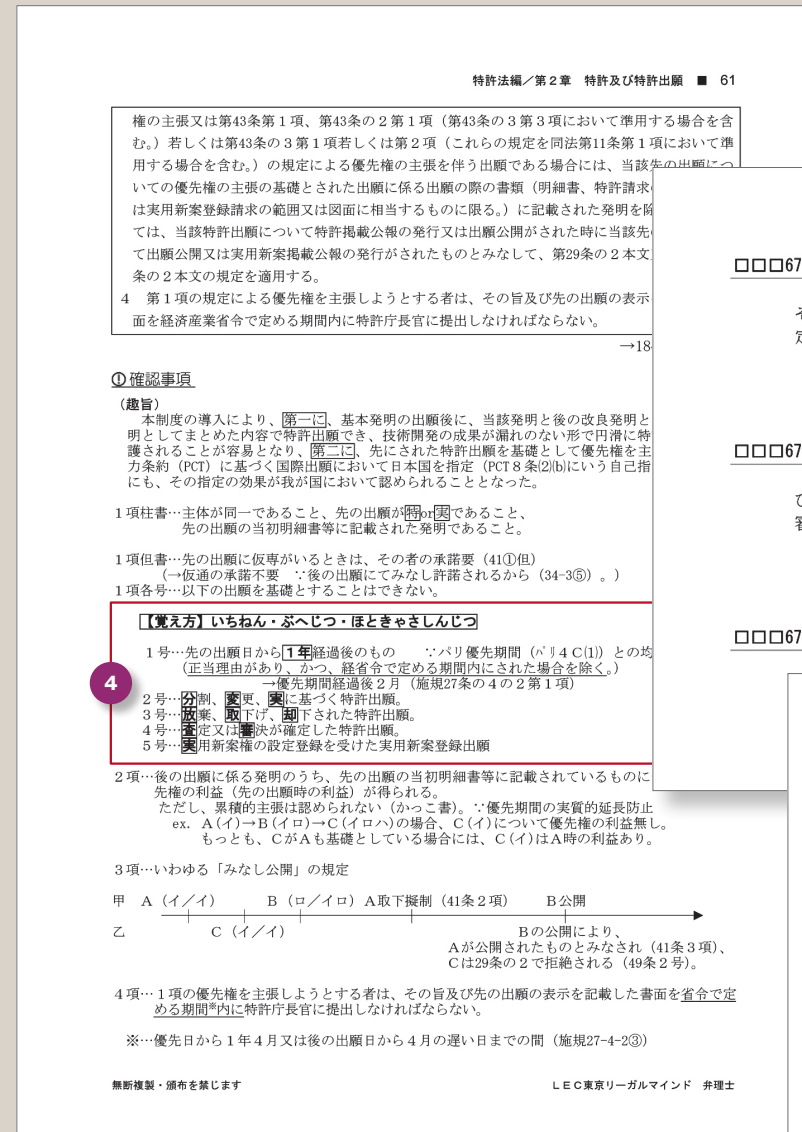
『一問一答集』で解答力養成

復習用教材として『一問一答集』が付属。この一問一答形式のオリジナル問題集を講義と併行して活用することで、「合格できる知識」を完成させながら、「瞬時の解答力」も養成します。枝毎の問題集なので、受験生の苦手な「いくつかあるか問題」に対する免疫力も高まります。

6

論文、口述まで使える秘密兵器

『一問一答集』は携帯しやすいA5サイズ。見開きで問題と解答が確認できる構成となっていますので、スキマ時間に解答力を磨くアイテムとして最適です。理由付けもしっかりしているので、短答だけでなく、論文、口述と最終合格まで使い込めます。



■■■674

補正後においても答弁や訂正をさせるまでもなく無効審判請求に理由がないと認められるなど、被請求人の防御の機会という観点から答弁機会を与える必要がないと認められる特別な事情があるときは、答弁の機会を与える必要がないとした（青本特 134 条 2 項但書）。

■■■675

審判長は、審判に関し、当事者及び参加人を審尋することができる（特 134 条 4 項）。さらに、この規定は再審においても準用されている（特 174 条 1 項～ 3 項）。【H23-55-2】

■■■676

特許無効審判の被請求人は、①特 134 条 1 項の答弁書提出期間内、②特 134 条 2 項の答弁書提出期間、③特 134 条の 3 による指定期間、④特 153 条 2 項による意見書申立て期間、⑤特 164 条の 2 第 2 項による指定期間内に限り、訂正請求をすることができる（特 134 条の 2 第 1 項）。